

令和4年度パネル展(会期：令和4年10月4日(火)～12月4日(日))

## 福岡鉄道遺産ものがたり 8

— 日豊本線編 —

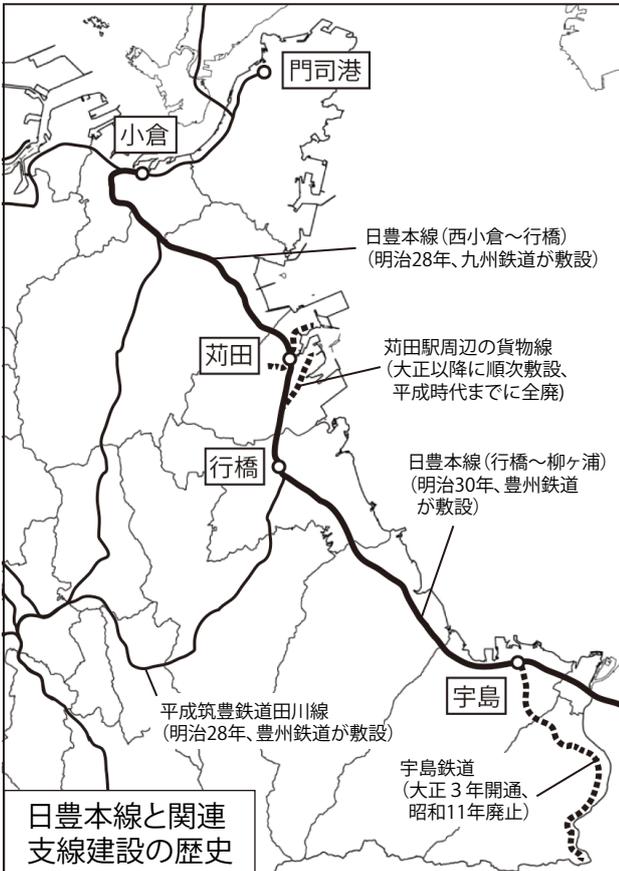


Kyushu Historical Museum Exhibition guide

## 1 豊国の鉄道遺産

福岡県では、明治22年(1889)に最初の鉄道が開通以降、多くの鉄道が敷設されました。これら鉄道に関する施設には、戦前から大切に受け継がれているものもあり「鉄道遺産」と呼びます。福岡県には多くの鉄道遺産が残されており、駅舎や保存車両から廃線跡に至るまで、多種多様な鉄道遺産を見ることができます。

本展では福岡県の鉄道遺産から、日豊本線に関する鉄道遺産を紹介します。日豊本線は福岡県と鹿児島県を九州の東側から結ぶ路線で、福岡県内ではかつて豊国と呼ばれた豊前地域を走ります。現在も明治時代の橋梁などが活用されているほか、かつて分岐していた支線の遺構も見られます。さらに列車始発駅の一つ、門司港には重要文化財となった鉄道遺産もあります。



※実線：現存線 点線：廃線(新幹線・軌道・モノレール等は省略)

## 2 九州鉄道と豊州鉄道

日豊本線全通は大正12年(現在のルートは昭和7年)ですが、福岡県内は明治時代に完成しました。県内では行橋を境に、異なる歴史で敷設されています。

まず北側の西小倉～行橋は、九州鉄道によって敷設されました。九州鉄道は、明治19年に計画が始まった九州最初の鉄道会社で、当初は福岡県を中心に現在の鹿児島本線等に当たる門司(現門司港)～三角の敷設を計画していました。しかし計画の途上、佐賀県や熊本県から追加の路線敷設を求められます。三県で協議した結果、佐賀県や熊本県の線路を延ばし、さらに福岡県内でも小倉(後の西小倉)～行事(後の行橋)の路線を追加することになり、明治28年に開業したのです。ちなみに当時の九州鉄道を走った蒸気機関車の1両は、後に大分県内の私鉄に譲られ、現在は大分県指定有形文化財として宇佐神宮で保存されています。

一方、行橋から南側は、豊州鉄道によって敷設されました。「豊州」という名の通り、豊国の人々によって興された鉄道会社で、行橋から大分県宇佐方面の本線に加えて、筑豊からの石炭輸送路線として田川方面への支線も敷設する、二方面への路線敷設を計画していました。会社設立後は資金難に見舞われましたが、県外の資本も加わって工事を始め、明治28年には行橋～伊田(現田川伊田)間が開通します。そして明治30年には、行橋～柳ヶ浦(大分県宇佐市)の本線も開通しました。

この豊州鉄道が建設した区間では、現在も当時の橋梁が残されています。たとえば行橋駅の南側の今川橋梁は、明治28年の田川方面開業時に建造され、明治30年の宇佐方面開業時に複線化された橋で、建造時のレンガ造り橋脚が、現在も一部使われています。また築上町にも二口川橋梁、岩丸川橋梁という明治の橋脚があるほか、後に自衛隊の基地拡張のため線路が移設された築上町内の旧線跡には、建設時のものと考えられるレンガアーチ橋が残されています。

なお豊州鉄道の田川支線は、現在は平成筑豊鉄道田川線等となり、同じく多くの鉄道遺産が見られます。

### 3 国有鉄道

九州鉄道は明治34年に豊州鉄道を合併し、さらに明治40年には国有化されて国有鉄道となりました。国有鉄道は南への路線敷設を進め、明治44年に大分、大正12年には鹿児島まで東回りの線路を繋ぎました。それでは、国有鉄道時代の鉄道遺産を紹介します。

日豊本線列車の始発駅の一つ、門司港駅は、大正3年建造の駅舎が現役で活用されています。この建物は当時流行していたネオ・ルネサンス様式で、昭和63年には駅舎として初めて、国の重要文化財に指定されました。近年復原工事が行われ、創建時の姿がよみがえっています。この他、築上町の椎田駅、豊前市の豊前松江駅は、昭和初期の木造駅舎が残されています。

門司港駅に隣接する九州鉄道記念館には、かつて豊後地域を走った、キハ42055号気動車が保存されています。昭和12年に製造され、外観は当時流行した流線型です。また製造時は機械式と呼ばれるガソリンエンジンで動き、後にディーゼルエンジンに換装されましたが、機械式の部品等も残されています。こうした初期の気動車の特徴を残す点が評価され、令和4年、気動車として初の重要文化財に指定されました。



(重要文化財)  
門司港駅



(重要文化財)  
キハ42055号気動車  
(JR九州所蔵・九州鉄道記念館保管)



セメント専用線の橋梁跡



今川橋梁



豊前松江駅



宇島鉄道の築堤跡

### 4 支線と幻の鉄道

次に、日豊本線から分岐していた支線について紹介します。苅田町の苅田駅や小波瀬西工大前駅からはかつて、貨物列車専用の支線が分岐していました。苅田駅からの支線は、近隣のセメント工場のためのもので、日豊本線から山側の採石場に伸びていた支線では、現在でも路盤の盛土やレンガ橋梁を見ることができます。また小波瀬西工大前駅から苅田港へ分岐していた通称・苅田港線は昭和19年に敷設され、筑豊からの石炭など、多くの貨物の積み出しに活躍しました。現在も、踏切跡に線路が残されています。

豊前市の宇島駅からは大正3年、宇島鉄道が開業します。大分県内の景勝地、耶馬溪方面へと敷設されたもので、終着駅も耶馬溪と名乗っていました。実際には、山国川対岸の大分県側にも耶馬溪鉄道が敷設されていたことで、耶馬溪観光にはあまり利用されず、経営不振で昭和11年に廃止されましたが、池を渡る築堤の跡などが残されているほか、後に有志によって駅の跡などに説明板が取り付けられています。

この他、実際に敷設されることはありませんでしたが、日豊本線沿線では明治以来、数多くの分岐路線や並行路線が計画されてきました。これらについては、計画時の地図や免許申請のための公文書から、敷設計画を知ることができます。こうした文書資料も、鉄道の歴史を解明する、貴重な鉄道遺産と言えます。

(文化財企画推進室 渡部邦昭)

#### 本展紹介の鉄道遺産の一覧

	指定	名称	所在地	製造(開業)
1	重文	門司港駅	北九州市門司区	大正3年
2	重文	キハ42055号気動車 (キハ07形41号気動車)	北九州市門司区 (九州鉄道記念館)	昭和12年
3		小倉工場	北九州市小倉北区	明治時代～
4		セメント専用線の橋梁跡	苅田町	大正時代
5		苅田港線	苅田町	昭和19年
6		今川橋梁	行橋市	明治28年
7		日豊本線旧線跡	築上町	明治30年
8		二口川橋梁	築上町	明治30年
9		岩丸川橋梁	築上町	明治30年
10		椎田駅	築上町	昭和11年
11		豊前松江駅	豊前市	昭和7年
12		宇島鉄道の駅跡	豊前市～上毛町	大正3年
13		宇島鉄道の築堤跡	上毛町	大正3年
14		宇島鉄道耶馬溪駅跡	上毛町	大正3年
—	大分県指定	宇佐参宮線 26号蒸気機関車	大分県宇佐市 (宇佐神宮)	明治24年



編集 発行: 令和4年10月4日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <https://kyureki.jp>